

東海新報

平成27年(2015年)
7月10日 金曜日

食堂を明るくペイント

復興応援プロジェクトで

末崎町

アートで被災地の復興を応援するプロジェクト「ARTS for HOPE」(アーツ・フォー・ホープ・高橋雅子代表、事務局・東京)は7、8の両日、大和田市末崎町泊里の仮設食堂「羅・萌衣ろくら・めーる」(大和田初男代表)の外装をペイントする支援活動を行った。プレハブの無機質な外観が明るい印象のデザインに変わ

り、大和田代表や地元住民らが「地域のにぎわい創出のきっかけ」と願いを込めた。アーツ・フォー・ホープは全国各地のアーティストらで構成。震災後から岩手、宮城、福島を支局を拠点に、仮設住宅などを回ってアートを通じた住民の心のケア活動を展開している。



大和田代表(65)は震災前まで、同食堂と同じ場所で民宿「碁石丸」を経営。大津波で民宿が被災したあと、被災跡地の再興と地域の活性化を願い、県のグループ補助を使って昨年11月、ほか2件の事務所とともに食堂をオープンした。

店を経営する中で大和田代表は、「プレハブのグレーの外観を変え、もっと食堂の存在

を知ってもらいたい」と検討。知人からアーツ・フォー・ホープの活動を教えてもらい、今回のペイントを依頼した。

作業を行った両日は、大和田代表と妻・照子さん(66)のほか、アーツ・フォー・ホープの会員、食堂の常連客ら地元住民、東京都などからのボランティアらが多数参加。1日目は外壁に下地の塗料

を塗る作業が行われ、壁を碁石海岸の風景に合う白と青の2色に染めた。

2日目は模様付け。淡い青や赤、黄色などの塗料でワカメをモチーフにした模様を描いたほか、食堂の名前を記すなどして存在感を際立たせた。入り口の扉も白い塗料を塗って明るくし、イメージアップにつなげた。

大和田代表は「震災後、暗くて何もなかった場所に人が集う空間をつくりたくて食堂を始めた」と当時の心境を語り、「今回はたくさんのお世話になりました。新しい外観となり生まれ変わった食堂で、より碁石の魅力を多くの人に知ってもらえるような経営をしていきたい」と意識を新たにしていた様子だった。

ボランティアと食堂の壁にペイントを施す大和田代表＝末崎町